



本号では、LMAG 会員も多く参加した IEEE Japan Council と東京支部による「日本企業の支援促進のためのワークショップ」、最近開催された2回の講演会の模様、LMAG-Tokyo の新役員選出、退任役員挨拶などの記事をお届けします。

1. IEEE Japan Council および東京支部主催「日本企業の支援促進のためのワークショップ」

2014年11月8-9日(土-日)に、早稲田大学西早稲田キャンパスで、Workshop on Japanese Industry Promotion が開かれ、多くの東京・関西 LMAG メンバーが講演者や会場での討論者として活躍しました。また、WIE (Women in Engineering), YPs (Young Professionals), Student Branch などの代表も参加し、多様なメンバーによる IEEE と企業の連携を深めるための議論が行われました。

IEEE の活動は、技術分野ごとの Technical Activities と支部や交流活動をより豊かにする MGA (Member and Geographic Activities) とに大きく分かれますが、今回のワークショップは後者の活動として、企業との一層の連携を深め双方向で貢献し合うための方向を話し合うものでした。

Japan Council 小山 Chair, 東京支部津田 Chair, Region 10 福田 Director とともに、MGA から Prof. Lawrence Wong をはじめとする4名の幹部を迎え、日本の IEEE 会員の現状、将来への可能性について話し合われました。LMAG からは、最も若い会員である桑原秀夫氏が企業人として IEEE から得た豊富な経験を語るなど、活躍しました。

日本の企業が国際的な競争力を一層高めるために、IEEE を活用することが有益であることが認識されました。LMAG としては、企業内の IEEE ネットワークに側面支援することや、YPs, WIE, Student Branch と連携したプログラムを推進することなどをめざします。



ワークショップの模様

なお、このワークショップは Japan Council の下に 2015 年から正式に発足した Industry Promotion Committee (Chair: 持田侑宏氏) の準備としての意味もありました。LMAG もこの Committee に協力して参ります。このワークショップの記録は、間もなく Japan Council のホームページ上に公開予定です。 <http://www.ieee-jp.org/japancouncil/>

2. KDDI(旧 KDD), AT&T 社及びハワイアンテレコム社による「第一太平洋横断ケーブル(TPC-1)の IEEE Milestone 認定記念講演会を開催

KDDI (旧 KDD), 米国 AT&T 社及びハワイアンテレコム社が 1964 年に運用を開始した、世界初の太平洋横断電話ケーブルである 第一太平洋横断ケーブル (TPC-1) が 2014 年 7 月 14 日に IEEE Milestone に認定されました。2014 年 11 月 12 日(水)に、ホテルグランドパレス(九段下)にて Milestone 銘板の贈呈式が行われ、あわせて記念講演会が開催されました。



IEEE Milestone 認定記念講演会の模様

記念講演会では、最初に IEEE Japan Council History Committee Chair の白川 功氏より IEEE Milestone の概要が紹介されました。次に江幡篤士氏(アジア海材エンジニアリング(株)代表取締役、元 KDD)による TPC-1 の概要についての講演、田巻八郎氏(元大洋海底電線(株)よりケーブルメーカーの立場からの講演、そして最後に梧谷重人氏(KDDI(株)グローバル技術・運用本部長)から「TPC-1 から FASTER へ」と題する講演が行われました。

TPC-1 に用いられたのは SD ケーブルと呼ばれる外径 1 インチの同軸ケーブルであり、日本（二宮）からグアム、ウェーキ、ミッドウェイを経由してハワイまで 9,800km におよぶルートに敷設されました。システムは 3kHz 帯域の電話 128 回線を収容するものであり、37km 毎にウェスタンエレクトリック社製の中継増幅器が設置されました。敷設された海底ケーブルの 1/3 は日本で製造されましたが、大洋海底電線株式会社はこのために設立された会社です。ケーブル敷設は 1964 年 1 月 12 日から 5 月 14 日にわたって行われ、6 月 19 日に開通式が行われました。開通式では、当時の池田勇人首相とジョンソン大統領の間で日米通話が行われました。このように TPC-1 によって初めて安定した通話が可能となり、日本の経済成長が著しかった時代に、増大する国際電話需要に応える重要な役割を果たしました。

その後、光通信技術の出現によって、TPC-3 では再生中継伝送による 560Mbps（電話 7,560 回線）方式が 1989 年に運用開始し、TPC-5 では光増幅技術による 10Gbps（電話 12 万回線）へと発展し、そして 2014 年に敷設開始した FASTER という最新の海底ケーブルはコヒーレント伝送技術により、6 対ファイバーで、各 100Gbps を 100 チャンネル波長多重伝送することで、最大 60Tbps の伝送容量を実現するまでに発展したことが語られました。

3. 東京支部・LMAG-Tokyo・Japan Council WIE 3 者共催講演会を開催

土井美和子氏による「出口指向のヒューマンインタフェース研究開発 —非常識から常識へ—

日本のヒューマンインタフェース研究開発の第一人者である土井美和子博士による講演会が 12 月 8 日（月）に開かれました。現在監事として活躍中の情報通信研究機構（NICT）の紹介の後、東芝時代のヒューマンインタフェース研究開発の軌跡を実例とともに述べられました。



土井美和子博士講演会の模様

「ヒューマンインタフェース研究は研究でない」といわれたが 35 年間やり続けて多数の大きな成果を得たこと、「ソフトウェア特許は存在しない」といわれたが、挑戦し続け全国発明表彰を受賞するまでになったこと、などを通して、常識の向こうを目指す重要性を語ってくださいました。常に出口を考えながら、新しいテーマに挑戦してきた事例は、機械翻訳、ジェスチャ認識、ウェアラブル端末、脳のモデリングなどに及び、幅広い年代の聴衆に感銘を与えました。

4. 2015 年度役員決定および引継ぎ会

IEEE 東京支部 LMAG の 2015 年度役員候補者について、2014 年 9 月 5 日配信の IEEE 東京支部 LMAG 広報にて公告しました。「役員候補者の追加指名」のお申し出は、期限の 9 月 30 日までではありませんでした。これを受けて 11 月 12 日の LMAG 役員会において、下記候補者 3 名を 2015 年度（2015.1.1～12.31）の LMAG - Tokyo 役員と決定し、12 月 5 日の IEEE 東京支部理事会に報告し確認を受けました。

ここに、以上の結果を報告させていただきます。

2015 年度役員

Chair: 稲田浩一（株式会社フジクラ顧問）
 Vice Chair: 三木哲也（電気通信大学特任教授）
 Secretary: 高野 忠（日本大学客員教授）

なお、上記の新年度役員と下記 2013—2014 年度役員との業務運営引継ぎ会議を 2014 年 12 月 19 日の午後に機械振興会館にて開催しました。



新役員（左から）：稲田浩一、三木哲也、高野 忠



退任役員（左から）：持田侑宏、多田邦雄、三木哲也

5. 役員退任挨拶

皆様ご承知のように、IEEE 東京支部 Life Members Affinity Group (LMAG-Tokyo) は、東京支部所属のライフメンバー（終身会員）全員からなる自治的自発的なボランティア団体です。実は、全世界に多数ある IEEE 支部のうち、LMAG が付随している支部は僅か 80 余に過ぎません。Region 10 (Asia-Pacific 地域) では僅か 5、うち日本では東京支部と関西支部だけにあります。こうした事実は、支部内に LMAG を設立し、運営を軌道に乗せ、更に「経験豊かなライフメンバーのボランティア活動により、メンバーのさらなる能力向上、社会貢献、相互交流親睦などを通じて、広く会員の便宜向上をはかる」という LMAG の目的を十全に果たしていくためには、一般に関係者や会員の努力、協力が大いに必要なことを物語っているとも見ることが出来ましょう。

さて LMAG-Tokyo は、現在、会員 500 名を擁し、米国以外の地域の LMAG では最大のものであります。設立総会は 2010 年 10 月 8 日に行われ、初代役員の葉原耕平 Chair、臼井支朗 Vice Chair、持田侑宏 Secretary のもとで、講演会開催とニュースレター刊行を 2 本柱とする活動形態の基礎が確立されました。

引き続き、2013 年 1 月 1 日から 2014 年 12 月 31 日まで、第 2 代の役員、すなわち **2013, 2014 年度役員**として、

Chair: 多田邦雄（東京大学名誉教授）

Vice Chair: 持田侑宏（バイエルン州駐日代表部）

Secretary: 三木哲也（電気通信大学特任教授）

が務めてまいりました。

この期間の当初の目標は、上記 2 本柱の活動を更に拡充すること、その他新種の活動にも目を向けることなどがありました。偶々、就任早々、奥村善久先生（元 NTT、金沢工業大学名誉教授）のドライバー賞受賞というニュースが入りました。工学分野のノーベル賞と言われる賞の日本人で初めての受賞を祝して、多角的で盛大な受賞記念講演・座談会を開催することができ、好評を博しました（ニュースレター第 10 号：

<http://www.ieee-jp.org/section/tokyo/lmag/newsletter/2013/10.pdf>)。

2014 年度には、東京支部として初めてと思われる見学会を試行してみようということで、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 施設見学会と立川敬二 JAXA 前理事長の講演会ならびに懇談会という 3 連行事を 2014 年 7 月 10 日午後実施し、これも好評を博しました（ニュースレター第 13 号：

<http://www.ieee-jp.org/section/tokyo/lmag/newsletter/2014/13.pdf>)。

さて、LMAG 会員から見ると、知恵や経験の発表、記録、伝承さらには啓発といった活動も重要と思われます。その方向への一助として、世代間交流会への協力や他のボランティア組織との共同活動が重要視されております。最近の例としましては、2014 年 3 月 15 日に、東京支部の Student Branch 及び Young Professionals (YPs) Affinity Group, Japan Council 所属の Women in Engineering (WIE) Affinity Group と 4 者合同で、世代間交流会を開催しました（ニュースレター第 12 号：

<http://www.ieee-jp.org/section/tokyo/lmag/newsletter/2014/12.pdf>)。

また本号冒頭の記事 1 に紹介しましたように、Japan Council 及び東京支部主催「日本企業の支援促進のためのワークショップ」に全面的に協力しました。さらに本号の記事 3 にまとめましたように、WIE Affinity Group との共催講演会を初めて開催できました。このような他のボランティア組織との協力活動は、今後その比重を益々高めていくものと思われます。

以上、LMAG-Tokyo の 2013, 2014 年度役員を退任するにあたり、報告や所感の一端を述べさせていただきます。ここで会員各位に一言お願いをするとすれば、LMAG-Tokyo をより身近に感じて諸行事に積極的にご参加いただき、更には今後の活動に対して様々な機会を通してご提言、ご協力、ご貢献を頂けますようにということであります。2 年間種々ご協力いただいた関係各位、会員各位に深謝申し上げるとともに、新役員のもと、LMAG-Tokyo の活動が今後益々盛大になることを祈念し確信しております。

6. 投稿募集

皆さまからのご寄稿を募集します。運営に関するご意見、ご提言の他、経験談や技術史に関することなどでも結構です。LMAG 会員はもちろん、それ以外の IEEE 会員からのご投稿も歓迎します。下記の事務局へお送りください。編集部会で編集、確認の後、掲載させていただきます。

**IEEE Tokyo Section Life Members Affinity Group
Newsletter 2015 年 1 月 28 日発行 第 14 号**

発行: IEEE 東京支部 Life Members Affinity Group

〒105-0011 港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 517 号

URL: <http://www.ieee-jp.org/section/tokyo/lmag/index.htm>

E-Mail: tokyosec@ieee-jp.org